

IBC2006 モントリオールの暑い日

京都大学医療統計 佐藤俊哉

2006年7月16日(日) Les 3 Brassuers

このところ体調が悪く全身が凝り凝り病の上、金曜は久しぶりに医薬品機構の専門協議で東京出張だったので(理科大 吉村先生も一緒)、土曜日は1時間半のマッサージにかかり、夜のお酒も晩酌のあとはビール1杯だけにとどめ、新品のスーツケースも購入して万全の状態で行き先へ。今回は学会発表はないのだが、IBS 日本支部が IBC2010 に立候補するので、その説明をするという大役を担ってのカナダ行きである。

ガイドブックも買わず、ほとんど下調べはせずだが、唯一、モントリオールのパブだけ3軒ばかりチェックし個人的には万全である。

飛行機の出発が午後1時なので今朝は7時半に起きて支度をし、恵子先生と一緒に朝ご飯を食べる。MKさんは時間よりちょっと早めの8時45分ころ来て、今日も満員だということでいつもの助手席に乗り出発。

珍しく、もう一人を瓢亭のさきで拾って全員そろい、山科の京都東インターから高速に乗り、関空には10時半についてチェックイン。そうしたら新米のおねえさんに「安全月間なのでドリンクの中をみせてもらってもいいですか」といわれ、時間はたっぷりあるのでいいですよ。中身を完全チェックされるが、着るものしか入っていないのでつまらない。こんなことなら「宇宙怪人しまりす」でも入れておくべきであった。

ロイヤルでコーヒーを一杯飲んだらとてもまずかったので、もうゲートに向かいしばらく待つと搭乗。ノースウエストは倒産してからサービスが悪くなった、なにが悪いってエコノミーではアルコール飲料1回につき500円取られる、と秘書の西田さん情報を聞いていたが、ほんとにそうだったのでびっくりした。というわけで、最初の飲み物はいつもジントニックなのだが、今日はペプシ。ほかの人たちも現金なものでほとんどビールやワインを頼んでいる人はいなかった。今までの飲みすぎだったのかもしれない。それにしても500円払えば飲み放題とかならわかるが、1杯500円はぼったくりすぎ。

映画も3本ある割にはろくなものがなく、ピンクパンサーのリメイクだけみようとしたものの、スクリーンがにじんでいてとてもみていられないので、もっぱら週刊誌と本を読む。文春を隅から隅まで読んだのは生まれて初めてだ。ジェフリー・アーチャーの「十四の嘘と真実」は二度目にもかかわらず、中身をほとんど忘れていたのでおもしろくってはまってしまった。

恵子先生が、「飛行機に乗るときには腹を減らして乗れ」、というので搭乗前はコーヒー一杯だけに留めたのだが、それでも今回の食事はひどかった。だいたい親子丼とカレーというチョイス自体ありえない(大森先生は別として)、その上「もう親子丼しかない」といわれ、それも予想通り親子丼とは似ても似つかない鳥肉の上にテリヤキソースがかかったもの。昨年チャペルヒルに行ったときに帰りの便の出発が遅れ、おわびにと「ノースウエストエコノミークラスアルコール無料券」を2枚もらい、『国際線は無料だからいらないけど万が一のときのた

めにとっておこう』、となにが万が一なのかよくわからないが大事にとってあったのを1枚使って白ワインをもらう。食事は白ワインだけが救いだった、多くは語らない。

もう朝食はすっかりあきらめて、フルーツのみ。デトロイトでタコベルでも食べよう。食事や機内サービスは不満だったが、今回はずっと本を読んで機内では一睡もせず、でもわりと楽に(あつというま、の感じ)11時半過ぎにデトロイト到着。デトロイトでは名古屋からの便も一緒に着いたみたいで入国審査はごった返している。みると一々両手の指紋と写真をとっているではないか。写真はICパスポートに記録されているのでそれを読み取ればいだけなのに、これでは時間がかかすぎだ。もともと今回はデトロイトでの待ち時間が1時間ちょっとだったので、おかげでゲートに直行しすぐ搭乗する。モントリオールまではファーストクラスをとってくれたので快適である。マイレージが貯まり、ノースウェストのシルバーエリート会員なので、アメリカ国内便は空きがあれば自動的にファーストクラスにアップグレードされるという特典があってこれはなかなか便利である。モントリオールまでの1時間半はようやく半分くらい寝る。

モントリオールにすぐ着いたが、到着してから入国審査まで階段を上ったり降りたりさんざん歩かされたので頭にきた。モントリオール空港ではまずフランス語で話しかけられ、怪訝な顔をすると英語に切り替えるので、うっかり「ボンジュール」などといおうものならフランス語となって大変な目にあう。今回は恵子先生がいないので、市内までの行き方もろくに調べず、「空港から市内まではバスがある」、程度の情報のみで、いざとなったらタクシーと安易に考えていた。(大阪大の寒水さんもおなじだったらしい。)

まあそれでもバスはすぐにわかったので、13カナダドル払って市内へ。30分ほどでついたのはいいが、市内のどこに着いたか皆目見当もつかず、しかたなくバスターミナルからホテルまでは結局タクシーに乗るはめになりなにをされているのやら。10分くらい7ドルもかかったので、歩くのはムリだった。ホテルは、L'Appartement Hotelで、けっこう広いスペースにダブルベッドとキッチンつき、なかなか好みの造りである。チェックインしたらインターネットケーブルがなかったのでフロントに借りに行き、とるものもとりあえず恵子先生にメールを送ってシャワーを浴びる。ふらふらなのが少し生きかえった。

海外の初日は面倒なのでホテルのレストラン、と決めているのであるが、ここは朝食用のレストランしかないのでもしかたなく外にでる。日曜なのでレストラン以外のお店はだいたいお休みで、なにか軽いものを食べるか、サンドイッチとビールがゲットできれば部屋食でもいいなと思っていたものの、グローサリーストアはないし、ファストフードやデリはたくさんあるのだが、リカーショップが見つからないのでどうしようもない。なにがどうしようもないのかあれだが、ともかくどうしようもないのである。ぶらぶらしていると事前調査で目をつけていたブルーパブの一軒を発見。のぞくとなかなかよさそうなので、ここを第一候補に。

なおもぶらぶらしたものの、これといったところはなく、ドラッグストアで4Lの水をゲットしホテルに置いてブルーパブ[Les 3 Brassuers]へ。まずビール。ブロンドの大ジョッキ。これはなかなかいける。メキシカンラップというソフトタコみたいのを頼みビールを飲み飲み待つ。ほどなくきたメキシカンラップには例によって山のようなフライドポテトがついていて閉口した。でも

ビールがおいしかったのと、ソフトタコもおいしく、ちょっと濃いめのブルンの大ジョッキを追加し、ぽちぽちと全部食べてしまった。

お腹がもういっぱい。でもこれで 20 ドルなのがちょっと高い感じがする。ビールはまあリーズナブルな値段なのだが、ラップサンドが 9 ドルもして、もう少し量を減らしてほしいのになあと北米ではいつも思う。ホテルにもどって、テレビをみるものの、9 時過ぎにどうしようもなくなり亡霊と化して寝る。

7 月 17 日(月) **Miettinen** を見損ねる

夜中に起きたが無視して寝、もう一度起きたときにはトイレに行って時間をみると 2 時。いつもだとこれで寝られなくなるのだが、そのままうとうとし、3 時半、4 時半、5 時半と、さすがにあきらめて起きる。でも今回はかなり寝られたほうか。起きて今日の「次の次の IBC を開催する場所の会議」の準備にパワーポイントをチェックし、ウェブから写真をダウンロードして追加したり、万全を期す。ブラジルも立候補してきたのでワールドカップの雪辱をはらさなければならぬまい。

7 時前に朝食を食べに行くと、なんとベーグル、クロワッサン、パン、パン、パン、にシリアルとヨーグルトといった実にいい加減な朝食だが、まあうちでも朝はこんなものなので、ついてないよりましってことか。ベーグルとクリームチーズ、コーヒーとヨーグルトを取る。ところがヨーグルトが甘いのとへんな香料が入っていてゲロゲロ。ベーグルはまあまあ。そそくさと部屋に戻って会場へ。

会場までは歩いて 10 分もかからずたいへん便利だった。レジストレーションをしてオープニングセレモニーの会場に行くと座っていると、保健医療科学院の山岡先生に挨拶される。丹後先生はじめ保健医療科学院から何人もきていた。東大 松山先生にも挨拶される。セレモニーはセレモニーで、あまりおもしろくはないのと早口でききとれないので必殺聞き流し。

コーヒーブレイクでポスターをちらっとみて、菅波さんとか佐藤泰憲さんら今度は理科大組に会う。コーヒーブレイクの会場は講演会場とちょっと離れており、ブレイク終了 10 分前に、チリーンチリーンと昔懐かしいベルが鳴ったので、感度解析の招待セッションへ。寒水さんとすれ違い、途中トイレで久留米大 柳川先生に遭遇。会場で座ると後ろから「佐藤先生」、松山先生が学生さん連れで座っていた。なんでも松山先生と学生さんの飛行機の乗り継ぎがぎりぎり、荷物がとどかなかったとのこと。土曜日について、松山先生の荷物はきのうきたのだが、学生さんのはまだ届かないらしい。かわいそうに。どうするんだろうか。

感度解析のセッションは **Scharfstein** がキャンセルしたのでつまらないものになってしまった。(が、**Scharfstein** の話は難しすぎてわからないので、結局一緒か。) **Ian White** は **Stat Med** などでよく名前をみるが、メタアナリシスでの欠測の感度解析。ごくごく普通のことをやっていた。次の **Daniels** は学生みたいで、こちらはまともな選択バイアスの感度解析なのでまあまあおもしろかった。でもプレゼンテーションが今ひとつ。最後の **Carlin** も欠測、というより **multiple imputation** の感度解析で本人も「感度解析は欠測だけが問題ではないんだが」といって

が結局欠測のセッションと化していた。失礼なのは、最後に座長の **Kenward** 大先生が討論をしようとしたらほとんどの人がぞろぞろと出て行ってしまったこと。まったく仁義をしらない国の人たちには困ったものである。あれっ、松山先生もいない。

お昼はランチボックスがでるのでおなじ会場にいた柳川先生と取りに行く。ベジタリアン、ツナ、チキン、ターキー、ハムのサンドイッチから選ぶのであるが、わたしはターキー、柳川先生はチキンがほしかったのに売り切れでターキー。1階のソファに座ってよもやま話をしながら食べる。

柳川先生はポスターをみにいくというので、一旦ホテルにパソコンと神戸の資料をとりに戻る。ホテルでちょっと休んで14時から **Conference Advisory Committee** の会場へ。丹後先生、山岡先生、柳川先生はもうきていた。部屋に入ってパソコンの準備をしてスタート。日本支部、ブラジル支部の順に15分ずつプレゼンすることになり、東京の **IBC'84** からはじめて途中笑いもとりながら、最後は神戸のプロモーションビデオでしめくくる。もうちょっと英語を練習していけばよかったのだが、それでもまあまあのできて、持てる力のすべてを出し切った。

そのあと質疑があり、開催時期が7月中旬でなくてもいいのかとか **IBC** 一般に関するディスカッションばかりだったが、英語のやりとりについていけないといけなないので、緊張して途中から猛烈に胃が痛くなる。参加者数の見積もりが甘い、とか、途上国の参加者のディスカウントが入っていないとかの指摘もあった。水曜日にエクスカージョンを入れかどうか議論となる。

次はブラジル支部。事前の配布された資料には開催場所の地図もついていなければ予算の明細もついてなくいかげんだったので高をくくっていたのだが、アルゼンチン支部との共同開催だとか、リゾートをぶつけてきたり、その会場で15000人の国際会議をやったとかアピール満載。プレゼンターも英語はなまりがきついもののわたしよりもずっとうまく、ジョークを交えて立派なプレゼンをしているではないか。

なかなかコンピティティブなプレゼンとなり、わたしは **Conference Advisory Committee** のメンバーなので、投票はしないけどディスカッションには参加したいといったら委員長の **Ashwini** さん最初は **OK** だったのだけれど、会長の **Tom Louis** や他の委員から退出してもらおうほうがいいとか退出すべきだとかいわれ外に出されてしまった。しかたなくポスター発表の採点をして(今回の **IBC** では国際プログラム委員でもあるので、学生さんの口頭発表とポスター発表の採点をしないといけない、でも学生の発表は会議などでほとんど聞けなかった)、**Robins** の弟子の **Mark** が発表する会場へ向う。ところが会場はぎっしり満員で、一般セッションなのになんで?、という感じだったのだが、座長が今朝講演した **White** さんだったので欠測のセッションと会場を間違えたことに気がつく。

さらに悪いことにプログラムを見ていたらおなじ時間に **Miettinen** 大先生が講演しているじゃないですか。生 **Miettinen** がみられるところだったので大失敗だった。

でも気を取り直して **Mark** が講演している会場に行き、途中から聞いたのでさっぱりわけがわからず外に出ると丹後先生、山岡先生はじめ保健医療科学院の方たちがそろっていたの

で、さっきの Conference Advisory Committee の話を少しして別れる。受け付けで、Conference Advisory Committee の委員長 Ashwini さんに捕まり、「明日の 10 時にブラジル支部と一緒に結果を伝えるから、レジストレーションデスクに集合」といわれる。疲れたのでホテルにもどる。

7 月 18 日 (火) 嵐の後の

夜中に目が覚め天気予報でサンダーstormが来ると言っていたのが、ほんとに外はすごい雨と雷で、久しぶりのサンダーstormにやめればいいのに起きて雷を眺める。そんなことしているから案の定寝られなくなり、メールを書いたり、テレビを見て 2 時半ころもう一度寝るがなかなか寝つかれない。結局 6 時頃までうとうとただけでしかたなく起きることに。

7 時前に食事に行くと今日はマフィンがあったので、マフィン 1 個とグレープフルーツジュース、コーヒーの朝食。部屋に戻って今朝の最初は招待セッションのノンコンプライアンスに。最初はベルギーのエルスなんとか(苗字は読めない)。座長に「この分野のパイオニア」と紹介されていた。なんでも structural proportional hazard model というのを提案しているそうのだが多くは語らない。次の演者は学生で、招待セッションで学生はないだろうと思うが、なんでも causal logistic model を考えたのだそうだ。オッズ比は collapsible でないのでかなり無理があり、座長にも後で指摘されていた。

最後はペンシルバニア大の Ten Have。例としてあげた臨床試験が自殺対策の試験だったので、調べてうちの院生の米本くんにも読ませることにする。ディスカッションの途中で抜け出してコーヒーを飲み。この会場はコーヒーブレイクが一旦外に出て学生会館まで行かなければいけないのと、学生会館に行く途中に階段があり、学生会館ではまた 3 階まで階段を上らないといけないので困ったものである。水のボトルをとりコーヒーを一杯飲んでレジストレーションデスクに戻る。Ashwini さんとやあやあと話をし、Ashwini さんは GSK で働いているので、ICH で一緒だった Bill Louv と Frank Rockhold はしているかと聞くともちろんしているとのこと。そうこうしているうちに 10 時になったがブラジル支部の人が現れない。

ビジネスオフィスの Claire さんもきたが、連絡が取れないといっている。「正式な手続きとして、両方がいるところで伝えることになっているので 12 時にもう一回集まってくれ」とのこと。やれやれ。両方一緒じゃないと伝えない、ということは決まらずに両方に資料を再提出しろってことかな?、などと勝手に思ったが、どうだろうか。(勝手だった。)コーヒーブレイクの会場に戻って丹後先生と山岡先生に 12 時になったと告げ、次の Causal Inference の一般セッションへ。

最初は Sander Greenland 先生の弟子だった Marshall Joffe。Joffe は最近おなじような因果推論の仕事をしているので興味がある。次の人はなにをいっているのかさっぱりわからなかった。その次は松山先生のところの学生さんが Mega Study のノンコンプライアンスを考慮した発表をするはずだったそうだが、直前に来れなくなったので急遽松山先生が代理で発表することになった。と松山先生さんごん伏線を張っていただけあって 60 点くらいの発表。松

山先生もできを気にしていたので、自覚があったみたいである。

Whiteさんから、打ち切りが多いのでG-estimationで信頼区間が計算できないのはわかるが、ITTとおなじP値になっているのはなぜか、と松山先生に質問があり、松山先生うまく答えていなかった。次はマギルの学生さんで、propensity scoreを使ってノンコンプライアンスの調整をするというのだが、おいおいランダム化してるのに観察研究だと思って解析するのか、だった。次の人の発表も皆目理解できず、次の発表はキャンセルで最後はMRCのBondが生存時間解析での平均因果効果の推定。

終了後、松山先生にさっきのWhiteさんの質問は帰無仮説の検定結果がITTとおなじなのはおかしい、と行ってたんだと偉そうに教えたところ、松山先生はWhiteさんに話にくくというので、12時の待ち合わせに行く。委員長のAshwiniさんは会場を全部探したそうだが、ブラジルのPaulo Rebeiroが見つからないので3時にもう一度きてくれ、といわれがっかり。そのあと松山先生から、Whiteさんの言っていたことは先生の言っていたのと全然違った、といわれまたがっかり。

3時少し前に、山岡先生、丹後先生が「ブラジルの人もきて待っている」というので急いで待ち合わせ場所に。そうしたら別室に拉致され、どちらのプロポーザルもよかった、とAshwiniさんが切り出したのでてっきり再提出で仕切り直しかと思ったら、なんとConference Advisory Committeeとしてはブラジルを推薦することに決めた、とのこと。大きな理由はコストで、次いでブラジルで開催することによる周辺の支部へのインパクトだそうだが、日本の提案も会場が1カ所のできるなどから議論は沸騰したとのこと。

2010年は日本で開催して、2012年をブラジル開催というのは検討したかと聞いたが、IBCは北米-ヨーロッパ-それ以外の地域とローテートしているのでそこまでは考えなかったようである。しかし会長が「2010年をブラジルにすると日本は2016年まで開催できないがいいのか」と問いかけたとのこと。結論としては、IBC開催だけが重要な学会活動ではなく、日本にはセントラルオフィスに関係した活動もやってもらいたい、ということになったそうだ。そのあと、なんだかよくわからないが、ブラジルには日系人が多いので、日本支部主催のセッションを1つ作れ、といていた。ちなみにPauloの奥さんは日系だそうだが、そんなこといわれてもなあ。

このためだけにモントリオールにきたといっても過言ではないのがっかり。もう日本に帰ってもよいくらいだが、すぐにコーヒープレイクのところにもどって丹後先生と山岡先生に報告。みなさんせっかくやる気になっていたのも同様にがっかりだが、これを機会に韓国、中国、台湾などアジア地域の支部との関係を深め、できればEastern Asian Regional Meetingを開催するなどして、2016年開催に向けて努力しよう、ということになった。しかしひとり魂が抜けたようになり足取りも重くなる。

気を取り直してポスターの採点をしていると、今機構にいるという理科大の平川さんのポスターに吉村先生たちが群がっていたので、ブラジルに決まった話などをしたら、吉村先生「ぼくはブラジルで開催する方がいいと思うし、日本に金を出すだけではなくもっと学会の仕

事をしろというのは以前からいわれているからしかたないんじゃないの」とのこと。はいはいそうですか、っと。「ぼくは医薬統計コースがあるので木曜に帰るけど、あなたはいつ帰るの」、それは今回もし日本に決まったらなにがあるかわからないので最後までいることにしていましたけど杞憂でした。「決勝戦まで行くつもりが一回戦負け、って感じかしら、あっはっは」、それはないでしょう吉村先生、せめて決勝で負けたといってくださいよ。

あきらめて採点を続ける。今日のポスターはほとんどが専門外で、採点自体はあまりできなかったが、半分くらいのポスターが貼られていないので、プログラム委員長の Geert Verveke にポスターセッションが機能していないことを報告する。5時半から学会 60 年の軌跡、みたいな講演があるようだが、なんだか疲れてしまいホテルに戻る。

7 月 19 日(水) 本日休養

夜中に何度もトイレに起きるのはまだ時差に適応していない証拠で、それでも近年になくぐっすり寝られ、5 時 40 分に目が覚める。もう少し寝られるかなと思ったのだが、さすがに無理なようで起きてメールをチェックする。

月曜にも議論があったが、水曜日は 1 日エクスカージョンの日。実は 2000 年のバークレーから水曜の団体旅行にはいっていない。オーガナイズがうまくないと、時間ばかりかかるので疲れるからだ。もともとは学会自体に参加する人数も少なかったようだし、奥野先生のご著書を拝見するとみんなで旅行に行って親しくなって交流を深めるというのが趣旨だったようだが、人数が多くなった現在は必要なのだろうか。まあ昔は海外旅行がたいへんだったので、ついでに観光するという目的もあったのだろうが、それよりも 1 日短くしたほうがいい。

学会は 8 時開始なのでいつも 7 時前に食事に行くが、今日はゆっくり 7 時半に朝食に。すっかりグレープフルーツジュース、マフィン、コーヒーに定着した。コーヒーをお代わりして、さらに今日はデパートが開く 10 時まですることがないので、部屋にコーヒーを持って帰り、メールを出したり日記を書いたり。学会のコーヒーは濃すぎてまずいが、ホテルのコーヒーはうすいし味はいいし助かる。

10 時になったのででかけることに。まず Complex Les Ailes というデパートとモールが一緒になったところへ。セールとはいえさすがに小さなお店に入ると店員がうるさそうなので、デパートの Les Ailes で紳士服をみるが、お目当てのジャケットはなさそうでクイックルックで次へ。次は Eaton Center、ここはモールだけでちょっと店には入りづらく、次の Place Mont Royal もおなじなので Simons へ。これらが全部地下でつながっていて、地下にもいろんなお店があるのとフードコートがたくさんあり、中華のファストフード店もいくつかある。Simons にやっとジャケットがあり、気に入ったのがあったのでさっそくきくとこれがぶかぶか。しかもセールなのでサイズはなし。

ここから事前にチェックした Brutopia というブルーパブまで歩いていくらないので、今日は休養日だから昼からビールでもいいかなあ、と天の声がする。ともかく Brutopia があるという Rue Crescent に向かう。Rue Crescent にはレストランやパブがたくさん並んでいて、お昼時

なのでどこの店も鈴なりの人で『Brutopia に入れるだろうか』と心配したが、入っていくと客はひとりだけで杞憂だった。おねえさんが「May I help you?」というのだけれどそういわれても「Can I have a beer?」としかいいようがなく、おねえさんも笑っていた。好きな Indian Pale Ale をもらう。一口飲んで、『ああスーパーで買った瓶の Griffon Extra Blonde がうまいなんて思っていたのが間違いだった』と悔い改めた。ここのビールはそれはそれはおいしかった。ただ食べものはチョイスがまずかったのか今ひとつだった。

水曜の昼からビール 1 パイントはなかなかいい気分です、もときた道をふらふら歩いて帰る。ホテルでメールをチェックすると月曜の Conference Advisory Committee の議事要旨がきていた。みると、なななんとアルゼンチンの代表が参加しているではないか。ブラジルの提案はアルゼンチンとの共同開催なので、わたしが参加できなかった投票にアルゼンチンの代表が参加したのはおかしな話だし、強豪ブラジルにアルゼンチンのアシストでは、J リーグなんかかなうわけがない。すぐに Ashwini さんに、『議事要旨をみた、わたしが途中で退出したことを加えてほしい、ついてはアルゼンチン代表も途中で退出し投票しなかったことを確認したい』とメールを送る。

今晚はなにをたべようかと Eaton Center の地下フードコートをぶらぶらしていると向こうから三共の渡橋さんが歩いて来た。ちょうどよかったのでビールでも飲みに行こうと誘って、一緒に初日に行った Les 3 Brassuers に。そしたらうちの蔡さん、阪大の黒木さん、Warwick 大の逸見さんの三人組とフードコートですれ違い、向こうは向こうで「みんな考えることはおなじなんだ」などと思っていることであろうが、きみたちの想像をかけ離れたドラマがあったことは誰も知らない。

Les 3 Brassuers ではお試し 4 点セット、渡橋さんはアンバー。もうこの間のようなポテトフライは食べきれないので、穴の空くほどメニューを眺めて軽そうなものを探す。そしたらクロックムッシューのサイドがポテトではなくグリーンサラダだったのでそれにし、渡橋さんはなにか得体の知れないものを頼んでいた。ここのビールは初日は感動したのだが、お昼に行った Brutopia のビールとは比べものにならず、ちょっと不満。まあ 4 種類ぜんぶ楽しめたのと、クロックムッシューが期待以上においしく、またビールに合ったのでとたんに機嫌がよくなる。

珍しく渡橋さんが「もう一杯飲まないんですか」(「もう一杯飲みましょう」といわないところがいかにも渡橋さんらしい)。でアンバーをもう一杯。いつのまにか 9 時で渡橋さんは反対側のホテルなのでマギル大学の前で別れてホテルにもどる。

ホテルに戻ってメールをチェックすると Ashwini さんからメールで、「アルゼンチンの人がいるのをうっかりしていた。われわれのミスだが、投票は大差でブラジルだったのでアルゼンチンの投票は影響しなかった」とのこと。すぐさま、「あなたを信用したいが、わたしは残るべきではないとみんながいていたのをアルゼンチンの代表もきいていたはず、なぜアルゼンチンが退出しなかったのか不思議である、投票が大差だったというのも信用したいが、議事要旨には投票数も結果も書いていないのでなんともいえず、なんとなく不信感が残る。できればこの意見を executive committee に伝えてほしいが、どうするかはあなたに任せる」と返

事を書く。Sander 先生のところまで在外研究をしている千葉さんから電話があり、飛行機が 2 時間送られて今ついたとのこと。たいへんである。

なぜかビールをもう一本飲んで 11 時に寝る。

7 月 20 日 (木) 会長降臨

6 時ごろ目が覚める。メールをチェックすると Ashwini さんから Council Meeting の前に会いたいとメールがきていた。しめしめである。多少は交渉の余地があるかもしれない。もう定番化したグレープフルーツ、コーヒー、マフィンの朝食を取って会場に。今朝はサロゲートエンドポイントの特別一般セッションと Conflict of Interest のセッションがあり、このセッションには Susan Ellenberg 先生の名前があったので楽しみである。サロゲートエンドポイントのセッションは満員で千葉さんがきていたので声をかける。千葉さんは場違いな服装だが元気そう。Marshall Joffe もきていた。ひとつ感心したのは FDA の人が「overall survival の解析では、progression free survival の最終解析よりも、overall survival の途中解析のほうがいいサロゲートだ」といっていたので、なるほどなあとメモする。

終わったら会場に Susan さんがいて、久しぶりだねなどと外に出るとなんとそこには Steve Ruberg さんが。どちらも ICH E9 のときの仲間。Steve はリリーに勤めているので神戸に来るときには京都に寄るといっていた。Susan さんがだれかにつかまったので失礼して水のボトルを取りに行き、ポスターをクイックルック。蔡さんと黒木さんはいまごろポスターを貼っている。千葉さんのポスターももうちょっとなんとかならんのか、と思ったが大学の設備が良くなく、しょうがなかったんだそう。戻る途中でコーヒーを持った Susan さんが追いかけてきたので一緒に会場に。

会場の前に Marshall Joffe がいておなじ大学の Susan さんが挨拶するので、紹介してくれと頼む。Joffe に挨拶すると、お前は Sander Greenland と親しいサトウかと聞くので、そうだとお前のことは知っている、とのこと。ま、これでなにかつながりができれば、ペンシルバニア大学には Susan さんに Rosenbaum 先生もいるのでなにかできるかもしれない。

さて Conflict of Interest のセッションは、JAMA が「企業がスポンサーの臨床試験で企業の統計家だけが解析した論文は、第三者のアカデミックの統計家が再解析して結果を保証しないと掲載しない」というポリシーを発表したのが発端。国際計量生物学会としては意見したい、と当時の会長 Geert Molenberghs が Council に諮った。でもいくら影響力が強い雑誌だといっても所詮アメリカのドメスティックな学会、なんだか子供のけんかに大人が出て行くみたいだから、まず北米支部の ENAR とか WNAR が文句を言って、それでもだめなら国際学会の出番だろう。しかも本気で意見を出すなら、国際計量生物学会の会員は協力しない、くらいはいわないと。

PhRMA と ASA も意見を出したそうだが、IBS と PhRMA の意見は、掲載されたけどだめといわれ、ASA のは掲載すらしてもらえなかったそう。これに頭にきた学会は JAMA のエディターのひとり呼んで、Jim Ware, Steve Ruberg, Niels Keiding, Le Cressie, Susan Ellenberg

と5人がかりでぼこぼこにしようというもの。ま、統計家はどうぜんみんな反対。Jim Ware 先生は NEJM の統計アドバイザーだが、「統計の遺伝子と正直の遺伝子はとても近いところにあるんだ」とうまいことをいっていた。なかなかおもしろいディスカッションだったが、『これで来年の医療統計レポートの課題がひとつ決まった』とにんまりする。

千葉さんとお昼を食べようとランチボックスを取りに行くと柳川先生がいたので合流して三人でランチを食べる。千葉さんはスーツなんか着てきていて、なんでスーツなんかかというと、うちの嫁さんがうるさいからといていたがそれにしてもちょっと場違い。

さっそくポスターを見に行く。今日は日本人がたくさんポスターの発表。ささっとポスターの採点をすませ、1時半から Council Meeting に。こんなことばかりで講演をほとんど聴けないのだからいいのだろうか。会場に行くとさっそく Ashwini さんがきてちょっと話をしよう、アルゼンチンの代表が議論に加わったのはわれわれのミスだった、でも投票は9対1でブラジルだったのでアルゼンチンの投票は関係ない、会長とも話したがもう投票は済んでいるのでいまから結果を変えるわけにはいかない、との説明。しかし、プロセスがおかしかったため結果が信用できないことが問題なので、もう少しごねてみようかどうしようか考えたが、ちょうどそこに会長もやってきて、あれはわれわれのミスだったと認めたので、作戦を切り替え、「今回の結果については納得した、どっちの提案もいい提案だった。ついてはなぜ北アメリカヨーロッパその他の地域、というローテーションを厳密に守らなくてはいけないのか。日本もいい提案をしたのだから、たまには順番を変えてもいいではないか」、と試してみる。

そうしたら、会長もそれはいいアイデアなので、Council Meeting でお前が提案しろ、とのこと。1時半から Council Meeting がはじまる。IBC での Council Meeting では議論はするが、メンバー全員が集まれるわけではないので投票はしない。それでも今回は40人近く集まった。日本支部の会員数は250人弱で5番目に大きい region なのだけれど、council がわたしひとりというのはちょっとさびしい。いくつか議題がすすみ、Conference Advisory Committee の報告となる。Ashwini さんが2010年のIBCにはブラジルを推したいとあって、開催時期に関して9月の2週よりも12月にしたらどうかという議論があったが、まあ承認だろう。

で会長がうながすので、手を挙げて、日本支部もわたしもあと10年は待てない、なんでIBCローテーションを厳格に守る必要があるのか、たまには順番を変えることも検討してほしい、と提案したところ、何人かが「別に順番を守る必要はないだろう」という意見をいつてくれたのと、前会長の Molenberghs さんは「自分が Conference Advisory Committee の委員長だったときも、イタリアとドイツ、オーストラリアとニュージーランドなど負けた方には今回とおなじ問題が起きた。しかしいずれも近い国同士なので協力して開催できたが、今回の日本とブラジルではあまりにも離れすぎている。『その他の地域』とひとくくりにするにも問題があつて見直す必要がある」といつてくれた。どうやら2016年まで待たなくても日本で開催できるかもしれない。

そんなこんなで4時に会議は終わり、今日は7時から学会のディナー。バスで1時間もかかるところに拉致されるのでほんとうは行きたくなかったのだが、IBC2010を日本で開催する

なら、すべてをみておかないといけないからと申し込んでおいた。すべては杞憂だったのだが。一旦ホテルにもどって荷物を置いて、バスは 5 時半出発だというので 5 時過ぎにマギルに。柳川先生とおや後藤先生が話しているところに合流する。

バスがきたので乗り込み隣には華山さんが座る。もう時効なので昔華山さんの論文を査読した事などを話す。道路はけっこう混んでいて、なかなかディナー会場に着かない。高速を降りたのでそろそろかと思ったら、今度は普通の道を延々と走る。ようやくディナー会場につきドリンク。白ワインをもらったが、これがぬるくて今ひとつ。郊外の農場みたいなところなので普段はきっと涼しいのだろうが、今週のモントリオールは記録的な暑さだとかで、ここもかなり蒸し暑い。丹後先生と山岡先生がいたので Council Meeting の報告をしてひよっとすると 2016 年よりも前にできるかもしれないことを話す。アンバービールをゲットして、これは冷えているし味もよかった。そのうち Ashwini さんもきておなじようなことを話しているとようやくディナーのはじまり。

建物は農場スタイルというのだろうか、だだっ広い建物の中にテーブルと椅子が所狭しと並んでいて、今回の参加者は 200 名くらいいたかもしれない。わたしと柳川先生は保健医療科学院の方たちの席にご一緒する。と遅れて、IBS の T シャツを着てかなりごきげんな会長がふらふらとやってきて、手招きすると「ここは空いているか」とわたしの隣にどっかと座ってしまった。『さすが会長はいろいろ気を遣ってたいへんだなあ、こうやってあちこちのリージョンをまわるんだろうな』と思ったが、なんのなんの、途中ちょっと挨拶してくると一度中座しただけで、最後まで横に座ってくださり、よかったのか悪かったのかともかく会長の相手をして気疲れした。

ディナーの準備ができたというわりには食べ物なかなかでてこないし、テーブルが舞台のそばでカントリーミュージックの演奏がうるさくて話が聞こえず、もう会長とも怒鳴りあいである。会長が日本支部のみんなと乾杯しよう、なにに乾杯する、と聞くのでためらわずに、「IBC2012 in Japan」。会長は苦笑しながらも唱和してくれたので、これはほんとうになんとかなるかもしれないぞ。ようやくサラダとパンがでて、パンは焼きたてでおいしかった。ワインはやっぱり冷えてないので、ビールをもらうが普通のビールはいまひとつ。さっきもらったアンバーがおいしかったので、おねえさんにアンバーをくれと持ってきてもらう。そしたらどこかに挨拶に行ってもどってきた会長が「おまえはアンバーを手に入れたのか、おれにもくれ」ともう新橋のオヤジ状態。

建物の中にはクーラーなどなく、窓も閉め切っているので蒸し暑いこと限りなし。とどこかのテーブルが窓を開けたので、われわれも開けようとツムラの上原さんが木製の窓をがんばってこじ開けたものの止まらずに落ちてきてしまう。つと会長が立ち上がってなにをするのかと思ったらフォークを持って行き、窓枠に挟んで得意げに戻ってきたが、上原さんが手を離すとずるずると落ちていく。最後は丹後先生がナイフ 2 本をつかえ棒にしてようやく少しは風が入ってきた。メインの料理はチキンの焼いたので北米どこに行っても代わりばえしないが、わたしはチキンが好きなのと炭火で焼いているのでけっこうおいしく食べられた。

ミュージックは「上を向いて歩こう」になって日本人に歌えとうながされたり、会長はじめ主だった人を集めてカスタネットを演奏させたり、山岡先生はじめ女性を集めてやらせてみたり、最後は踊ったりとなんだか大盛り上がりで、日本でのディナーもこういう参加型のアトラクションを盛り込まないといけないかなあ、と思ったものの 2010 年はブラジルだった。会長のおかげで時間を忘れ、もう 10 時過ぎ。帰りのバスが出るというので急いでバスに向かうと Susan さんがやってきて、向かいのホリディンに泊まっているので一緒に帰ろうと拉致される。

恵子先生にメールを書いてシャワーを浴び、緊張が解けたのでほっとしてビールを 2 本飲んだらもう 1 時。外はすごいサンダーstorm。あわてて寝る。

7 月 21 日(金) Fourget Fourchette

さすがにゆうべ遅かったのとかかなり飲んだので、今朝は 7 時過ぎに起きる。もうちよっと寝ていたいのだがだめだった。今日はもう聞きたいセッションがなく、11 時半から松山先生のところの学生さんの発表、2 時半から理科大の佐藤さんの発表があるのでその 2 つを聞くのは義務か。ということで朝一のセッションはパスして例によって例のごとしの朝食を取り、コーヒーを部屋に持ち帰って日記やメールを書く。

松山先生のところの学生さんの上村くんのセッションは日本人が 10 人以上もきていた。上村くんの発表は、臨床試験の途中で見積もりよりも差が小さかったらサンプルサイズを増やしたい、という内容。菅波さんがあとでひとり突っ込みしていたように、「そういうことはもっと偉い人に言ってくれよ」。

上村くんの発表はなかなか立派で、キャリアの差で調整すると松山先生のよりもよかったといってもいいだろう。短パン、サンダル姿の松山先生は「それじゃあこれで」と消えた。どこにいったのだろうか。今日は理科大組と一緒に昼食を食べることに。と、久留米大組+αがいたので一緒にランチボックスする。寒水さんはこのあと佐藤さんの発表を聞いたらニュージャージーのファイザーにいくんだそうだが、なんと阪大の浜崎さんと車で行くとのこと。はたして無事に帰ってこれるのだろうか。そういえば佐藤さんがみあたらない。ひとり発表練習をしているのだとしたら立派なものだ。

もう佐藤さんの発表くらいしか聞くものはないのでどうでもいいのだがゲノムのセッションへ。なにをやっているのかさっぱりわからず閉口したが、Hothorn 先生のはまあまあ良かったのと、あれ $\max \chi^2$ じゃんと思った。このセッションはひとりキャンセルがあり、座長がひとりにつきプラス 2 分、と宣言したものの、韓国の女性がめっちゃめっちゃ時間を使い、最後の佐藤さんの発表の時には定刻どおりになっていた。佐藤さんの発表は以前 KBS の合宿で話してもらった内容とおなじで、途中文献の引用をしていた Bolding さんというのが佐藤さんの前に発表した人だったので、『これは質問されるよな』と思っていたらやっぱり質問されていた。

また、「なぜアレリックオッズ比を求める意味があるのか」と質問され、おなじ質問を KBS 合宿のときにして、ちゃんとその意味を調べておくようにいつてあったので期待していたら、合宿のときと同じ「医者が計算したいというから」という答えで、あーあ。まあこれで日程は全部

終わり。今晚は理科大組と食事に行くことにし、事前調査していた最後のブルーパブ Fourquet Fourchette に 6 時集合にして分かれようとする、どこかのリージョンが写真を撮ってくれとカメラを差し出す。それがひとつがふたつ、ふたつがみっつと、結局 4 台のカメラで写真をとるはめに。

ホテルに戻って日記を書いたりしているうちに 5 時半近くなったので、Palais des Congres にある Fourquet Fourchette へ。ホテルから歩いて 20 分ほどで到着。アウトサイドに 2 組の飲んだくれがいたが、店内はもぬけの殻。いったん外に出てみんなを待つとほどなく大日本住友の土屋さんが。ところが土屋さんはわたしよりも先にきたらしく、さっきの飲んだくれ集団に「こっちにきて一緒に飲もうや」と絡まれ、そそくさと逃げ出したとのこと。2 人で店に入り、あとから 4 人くるからとメニューをもらうと、ほどなく菅波、平川、佐藤、中水流が合流。とにもかくにも全員お試し 6 点セットを頼む。左からアルコール度数の低い順に飲む。最初は Blanche、これは蒸し暑くて喉が渇いていたのと Hoegaarden の白にそっくりでとてもおいしかった。次の Raftman はちょっと香料が勝ちすぎて「？」だったが、Eau Benite はまたまたいいお味。残りの 3 つは Maudite が 8%、Fin du Monde と Trois Pistoles が 9% というアルコール度数の高さ。どうもこの醸造所はベルギーエールの流れを汲んでいるようだ。

料理は菅波さんにまかせて、大皿盛りを 3 種類。これがまた魚のスモーク、肉のスモークとどれも美味でビールに合う。鴨のスモークとなんだかよくわからない内臓のスモークがもうめっちゃうま。パンが 2 種類出てきて、そのうちのマクビティービスケットをパンにしたようなものが穀物のエキスを食べているようでとてもおいしく、売っていたら買って帰りたいくらいだった。もう一種類のパンは菅波さんがトイレに立った帰りに、「焼きたてがあつたから一個もらってきた」と一口食べ「うめー」、みんなでパンの回し食いで「うめー」の連発。もうすでにお試しセットでみんないい気持ちだが、この人たちはどんどん行く。みなさんは最初の白ビールが気にいったようで白、わたしは U49 というピルスンのハーフパイントといったのにパイントが出てきて、出てきたものは断れない。

さらにチキンのゲロゲロとブルーベリーソーセージなるものを頼み、これまたどちらもおいしかった。白のハーフパイントを飲み、途中宇宙怪人の話しになったりちょっと危ない medstat の話になったりしたもの、すっかりいい気持ちと腹も満たされみんな大満足。みんなと別れ、まだ明るいのでふらふら歩いて帰り、9 時ごろホテルに到着。パッキングをして 11 時前に寝る。

7 月 22 日(土) 最後のビール

今日はモントリオール空港 12 時発なので、9 時半にタクシーを頼んだ。なのでゆっくり寝ていられるはずなのにこういうときに限って 5 時ごろ目が覚る。もうほんとにすることがないので、日記を書いたりメールを書いたり。7 時ごろに朝食に行き、マフィン、グレープフルーツジュース、コーヒー 2 杯、さらに部屋にコーヒーを 2 杯持って帰りのんびりする。

9 時過ぎにチェックアウト。タクシーも順調に走って 9 時 40 分には空港についてしまった。

チェックインがちょっと複雑で、荷物は出国のときに検査するというのでチェックインした後、出国カウンターまで自分で持って行け、といわれる。いわれるままに進むとデューティーフリーショップがあったのだが係員が「行け行け」というので、まだ先にもデューティーフリーがあるのかなと思いつつ(なかったのだが)荷物検査を受け、出国手続きを済ませる。

まだ時間があるので教室へのおみやげをどうしようかと思案していると、遠くから呼ばれているような気配がし、ふとみると菅波さんが呼んでいた。中水流さんと土屋さんもいてバーガーキングを食べている。若いからかほんとによく食う。お昼はデトロイトのサミュエル・アダムスの生が飲めるところで食べる予定だと話すと「そういうことはよく調べますね」と菅波さん。みんなと別れておみやげを物色するが、なんべんみてもメープルシロップしかない。

搭乗口に行くともたどこからかふらふらと菅波さんがあらわれ、しばらく話しをして自分の搭乗口へ去って行った。飛行機は時間通り12時6分に出発。またデトロイトまではファーストクラスが取れたのでらくちん。2時間くらいかかってデトロイト着。ゲートをチェックするとA36で、すぐ前にサミュエル・アダムスの生が飲めるChili'sがあつて好都合だ。さっそくChili'sに陣取る。

サミュエル・アダムスの大生と、いつもはナチョを頼むのが、今日はここでお昼を食べるので店頭に「お勧め」とあつたEastern Egg Rollを。サミュエル・アダムスはやっぱりうまい。Egg Rollも中身はよくわからないゲロゲロしたものだが、スパイシーでさくさくしていてとてもおいしかったうえ、ビールにばっちり。すっかり堪能してまだあと40分もあるなど思っていると、前に座つたアメリカ人のおっさんが遠くを見る目をしていて、ウェイターが注文をとりに来たら、「すまない、おれのフライトのボーディングがはじまったみたいなのでやめとくわ」といって出て行ってしまった。へえ、と思つて振り返るとそれは関空行きのフライトで、あわててウェイターを呼んで、おれもボーディングがはじまったので早く勘定してくれ、と頼みそそくさと搭乗する。

飛行機は満席で食事もひどくそれでもビーフとマッシュポテトとかいうのを少しだけ、最後のアルコールドリンク無料券を使って赤ワインとともに流し込み、サラダとかえびのカクテルソースとかはすべて残す。空港で食事しといて大正解だった。映画も見る気はしないので、持つていった「ふたりジャネット」とかいうあまりおもしろくなかつた短編集とモンリオールで買ったShadow of the Giantを読み続ける。途中2~3時間寝たが、寝ると首が痛くなって目が覚め、眠いのにも首が痛くて寝らない。仕方なく本を読み続ける。

恵子先生が準備して待っているおいしいものを食べたほうが100倍いいので、朝食もマフィンとフルーツだけにしてメインディッシュはいらないと断る。長~いなが~いフライトも終わり、夜の6時過ぎに無事関空に到着。空港のシャトルで黒木さんと蔡さんに会つた。蔡さんたちは座席は別々、しかも二人とも真ん中の席でさんざんだつたそう。幸いデトロイトまでがファーストクラスだったので、荷物も優先になつていたらしくすぐでできて、ふんふんとMKカウンターに向かう。今日はそんなに待たずに相乗りの客がきたのでMKシャトルはわりとすぐ出発した。家には9時到着。

いつものおかずといつもの日本酒に炊き立てのご飯というメニューで、今回の旅行ではご

飯をまったく食べなかったので、それはそれは美味だった。